

# 1. 目的

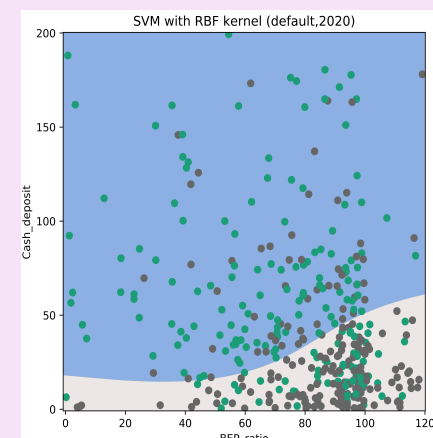
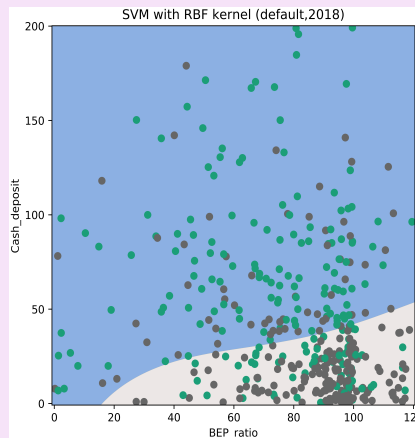
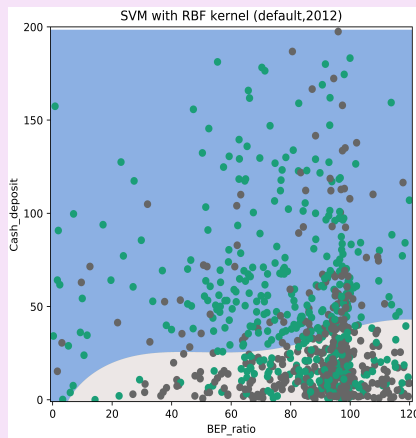
株式会社帝国データバンクが保有する企業の財務, 倒産・休廃業データを用いて倒産・休廃業企業と事業を継続した企業の売上高に対する現預金の大きさ (現預金手持日数) と損益分岐点比率の傾向を考察

# 2. 手法

SVM で判別境界を描画 (倒産・休廃業企業と同規模の企業を同数抽出)

# 3. 結果

2020年は損益分岐点比率の高低に関わらず現預金が50日以下の企業は事業継続を断念



# 4. 考察

新型コロナウイルス感染拡大を起因とする  
期中の業績の大幅な変化や無金利無担保政策により  
2020年の倒産は従来のように財務指標から説明できないことが示唆